



保健師職能だより

連続テレビ小説「風、薫る」で看護がクローズアップされている昨今、5月に「地域における保健師の保健活動に関する指針」が13年ぶりに改訂されました。主な改定箇所は健康危機管理や保健師マネジメントに関わる箇所です。7月から職能委員7名のうち、2名が交代となり、新たなメンバーで保健師が働きやすい職場環境づくりを目指し、交流会、職能集会を企画していきますのでよろしくお願いします。



令和8年1月27日(火)に令和7年度保健師職能交流会を開催しました
※参加者28名(新任期8名、中堅期10名、管理期10名)

内容:「私も大事、仕事も大事～保健師として輝き続けるために～」

東京医療保健大学 東が丘看護学部大学院看護研究科 教授 岸 恵美子氏 から講演をいただきました。

本来の保健師としての在り方を再認識し、レジリエンス・セルフコンパッションを取り入れながら、「いつまでも輝き続けながら働き続けるために」大切なことを考える機会とすることができました。講演後は、経験年数ごとにグループ交流会を行い、講演の内容や悩みを共有できる時間を持ち、講師からそれぞれに応援メッセージをいただきました。参加後アンケートから、「保健師としての役割や専門性を再認識できた」「元気になった」「モチベーションが上がった」などの情緒的な効果についての感想が寄せられました。

令和8年6月10日(水)11日(木)に令和8年度日本看護協会総会、保健師職能研修会に職能委員長が参加してきました。(於幕張メッセ、TKP 東京ベイ幕張ホール)



1日目の総会は、日本全国各地から約750名の代議員、一般参加者1300名が集結し、「看護の将来ビジョン2040」の実現に向けて熱い議論がなされ、2日目の各職能ごとに分かれての交流集会では、日本看護協会の松本委員長より2026年度の活動方針等の説明の後、シンポジウム形式で保健師の未来について大切なことを考えることができました。

ここでの情報を職能委員会に持ち帰り、活動に生かしていきたいと思います。

〇1日目 通常総会

令和8年度の重点政策、重点事業について

- 重点政策 ①看護職一人ひとりのウェルビーイングの向上 ②持続可能な看護提供体制の構築
③質の高い看護実践のための教育制度改革の実現 ④より高い自律性を持った専門職としての活躍
⑤地域における看護の拠点の確保

※②についてはDX等の導入、活用による看護業務効率化の推進、多様で柔軟な働き方に対応した人材確保の検討としてスポットナースなど、短期間でも働ける人材の確保などがあげられました。

〇2日目 全国保健師交流会

特別講演「2040年を見据えた保健師の保健活動のあり方検討会での議論を受けて」

講 師 厚生労働省健康・生活衛生局健康課保健指導室室長 後藤友美氏

シンポジウム「2040年に私たちの保健師活動はどうなっているか～保健師の未来を語る～」

座 長 北海道大学／富山県立大学 名誉教授 佐伯和子氏

シンポジスト 東京都保健師、京都府保健師、山口県保健師、神奈川県大学教授



自治体保健師人材育成
ポータルサイト(厚労省)

※人材確保のためのインターンシップの導入、都道府県支援による小規模自治体等への保健師派遣を含む保健師確保策の手引き、市町村のための人材応援の受け入れに関する受援計画の手引き等、業務に活用できる情報が多く得られました。



看護協会入会のご案内



千葉県看護協会
ホームページ

時代の変化に伴い、保健師の役割も発展が求められています。

日々の活動で抱える課題や疑問を、所属を超えた仲間と共有し、ともに一步を踏み出しませんか？

当協会は、看護師・助産師とも連携し、専門性の維持・向上を目指す職能団体です。語り合い、学び合える場として、皆様の声を政策提言へ繋げる活動も行っています。ぜひ、みなさまの入会をお待ちしております。

あなたのまちの取り組みを教えてください

～避難行動要支援者の個別避難計画～



君津市

福祉部障がい福祉課
三澤純子さん

人口:78,266人 個別支援計画策定を中心に行っている担当課:厚生課
避難行動要支援者のうち、地域へ情報提供することに同意された方について、自治会、民生委員、児童委員や地域支援者と個別の避難支援計画書を作成。

対象者:①要介護度3以上の認定者

②身体障害者手帳1・2級の所持者(肢体不自由・運動機能障害・呼吸器障害・視覚障害・聴覚障害に限る)

③療育手帳A以上の所持者 ④精神障害者保健福祉手帳1級の所持者

⑤その他、特に支援が必要な者(著しい認知症、寝たきり等)

対象者の人数(概数):対象者のうち、個別避難計画の同意者 992人

個別支援計画を策定できている割合(概数):計画作成数 473人 48%

個別支援計画策定の保健師の関わり: 令和6年度に君津圏域医療的ケア児等支援協議会において防災部会を設置し、君津圏域で医療的ケア児等に係る共通の個別避難計画書の様式を作成した。令和7年度には、医療的ケア児の個別避難計画を作成し、1事例の避難訓練を実施した。避難訓練は、民生委員、自治会、福祉事業所、訪問看護師、保健所、市の関係者が参加し、立案した個別避難計画書について具体的に検証し、その中で改善点の確認をした。

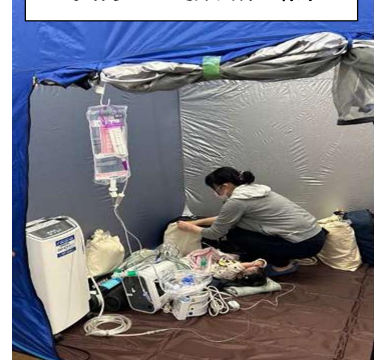
個別支援計画を策定したことで感じられる効果:

避難経路、避難場所、非常用持出品が明確となり、自助の備えを見直すことができた。また、どこに、誰と、どのように避難するかについて、事前に医療的ケア児とその家族のほか、地域の支援者と情報を共有できた。避難訓練を通して得られた結果を踏まえ、福祉避難所へのダイレクト避難、福祉避難所の運営における課題が明確化された。

在宅療養患者の災害時支援で課題と感じている点:

電源を必要とする医療機器を使用している場合、災害時の停電は生命の危機に直結するおそれがある。また、脆弱性、易感染性から、衛生環境の悪化が致命傷となるため、避難に際しては、電源やスペースの確保、衛生環境の整備が必要であり、それらに対応した避難所の確保やダイレクト避難の仕組みづくりが課題。医療的ケア児者の避難は、医療ケアに必要な特殊な用具や衛生材料、経管栄養剤、酸素ボンベなどの持出品が多く、マンパワーが必要であり、平時から様々な人を巻き込む備えが重要である。

当事者参加の避難訓練の様子



香取市

福祉健康部社会福祉課
栗野智恵さん

人口:68,237人 統括保健師:あり
個別支援計画策定を中心に行っている担当課:社会福祉課
委託先:香取障害者支援センター

対象者:①70歳以上の高齢者(ひとり暮らし、寝たきり、認知症高齢者)

②香取市見守りネットワーク事業利用者 ③要介護3以上の認定を受けている者

④自力で避難できない妊産婦

⑤障害者(身体障害者手帳1・2級、療育手帳A、A-1、A-2、精神障害者保健福祉手帳1級)

⑥支援が必要な特定医療費(指定難病)受給者 ⑦小児慢性特定疾病医療費受給者であって重症認定を受けている者

※⑤⑥⑦のみ社会福祉課障がい支援班が対応

対象者の人数(概数):

身体障害者 1,218人、知的障害者 282人、精神障害者 93人

個別支援計画を策定できている割合:

個別支援計画の作成が行われているのは、医療ケア児等のみ 現在7名

個別支援計画策定の保健師の関わり:

個別支援計画の作成は、香取市から香取障害者支援センターに委託しており、市の保健師が直接かわかることはないが、避難訓練にも参加し災害時の対応状況や問題点等の話し合いができた。個別支援計画を作成する中で、地域の課題や問題点がわかり、地区診断にもなっている。

個別支援計画を策定したことで感じられる効果:

個別支援計画を作成している方は医療ケア児等のみ。個別支援計画を作成しているのは、委託先の医療ケア児等コーディネーターである。個別支援計画があることで、本人や家族が災害時や避難所でどのような対応をしてほしいのか理解することができる。保健師は、市役所窓口や施設などで本人や家族の状況を把握しているため、避難所等でも声かけがしやすくなる。避難所では障害特性に配慮したスペースが必要になるが、福祉避難所では個のスペースを確保することが難しい。本人や家族が安心して避難所生活をするためにも、個別支援計画作成は委託先と連携しながら行う必要性を感じた。

在宅療養者の災害時支援で課題と感じている点:

医療ケア児者が在宅で生活するには、医療・福祉資源の連携が必要になる。社会資源が乏しい香取市では、今ある資源を応用しながら利用するしかない。また家族への支援が必要になるため、委託先だけをお願いするのではなく、委託先との連携や情報共有は必要となる。

当事者参加の避難訓練の様子

